

## 原子力に関する研究開発の推進方策について (高速増殖炉サイクル技術関連部分)

(平成18年7月28日 科学技術・学術審議会研究計画・評価分科会決定)

- 2050年より前に高速増殖炉(FBR)サイクル技術を確立する。
- 高速増殖炉サイクルの実証施設の運転開始時期を2025年を目途とする。
- 研究開発の実施体制については、国が主導する一貫した推進体制が構築されることが望ましい。
- 研究開発主体である日本原子力研究開発機構、実用化時に利用主体となる電気事業者、プラント建設を行う製造事業者が一丸となって開発を行う環境の確立が不可欠である。
- 文部科学省、経済産業省、電気事業者、日本原子力研究開発機構による協議の場を設けることが必要である。
- 「高速増殖炉サイクルの実用化戦略調査研究」のフェーズ Ⅱ の成果を基に、今後、戦略調査のための研究から、実用化に向けた研究開発にその性格を変えることとすべき。
- 2010年頃までに採用する革新的な技術を決定する。
- 2015年頃までには、実用施設の概念設計の最適化を行う。